

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年2月29日

事業所名 下関市こども発達センターはたぶ園

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	22	3	構造化しているため空間が狭く感じることもあるが、個人の落ち着けるスペースの確保などが必要。空間が狭く感じる活動やざわざわして落ち着かない時には空き部屋などを利用している。	利用者数・利用定員に対する施設基準は満たしています。活動内容や子ども達の様子によって、部屋を分けて少人数で安心して活動できる空間設定をしています。また、空き部屋、ホール、園庭などクラス毎に時間を分けて使用することで空間の確保に努めていきます。
	2 職員の配置数は適切である	11	13	職員の休みが重なる時(緊急時など)配置が少ないと感じることもある。子ども達の出欠に合わせてフリー職員で対応している。	各クラスの職員は適切に配置しております。人数が足りていない時にはその都度求人を出して人材確保に努めています。今後もそれぞれの職員が適切な療育支援を行うことが出来るよう職員ひとりひとりの資質向上に努めていきます。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	23	1	視覚支援や構造化を療育にとり入れながら子ども達に分かりやすい環境を提供している。	引き続き、1人1人の認知特性に合わせて情報を整理してわかりやすく伝えたり、他者とのコミュニケーションを円滑にし、様々なスキルの学習を促進できるように支援していきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	22	2	玩具を口に入れることも多い。また、玩具の数が多く整理整頓を心がけているがバラバラになっていることも多い。毎日療育後に清掃、消毒、衛生面に気を付けているが老朽化が進み修繕しきれないところもある。	老朽化は否めませんが毎日環境を整備し、気になる箇所は定期的に点検、必要に応じてその都度修繕していきます。衛生面でも清掃や消毒、整理整頓に努めていきます。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	16	5	月1回のクラスミーティング等でパート職員にも情報共有している。フリーの職員の参加が難しいことが課題。年3回実施しているケース会議で保育士や多職種と連携して情報交換、情報共有、目標設定などを行っている。	時間差勤務の職員やフリー職員との連絡会議や情報共有、情報交換の時間を確保し、多くの職員で支援について協議していきます。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	22	0		
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	21	0		
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	23	0	令和5年12月に第三者評価受審。	結果を踏まえて改善していきます。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	23	0	内部、外部研修で色々な分野の専門知識を学んでいる。外部コンサルテーションなどのアドバイスも受けている。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	21	0	全園児に対して年1回。就学、就園児については年2回アセスメントを実施。個別支援計画作成に反映させている。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	19	1		コンサルテーション等でアドバイスを受けながらアセスメントツールを作成中です。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	20	1	ガイドラインを正規職員全員に配布し、周知徹底を図っている。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	21	0		
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	18	2	クラスで朝のミーティング等で話し合っている。	時間差勤務の職員などに対しても活動の流れを共有できるように連絡ボードなどを活用していきます。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	19	1		職員でアイデアを出し合って同じ活動テーマでも変化をつけて子どもに合った活動を設定していきます。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	20	2		計画の中にも盛り込んでいるが発達にあった支援が出来るよう、その時の子どもの様子に応じて臨機応変に対応していきます。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	18	4	時間差勤務や添乗などで打ち合わせが出来ない時には連絡ボードや伝言メモを使用している。	時間差出勤や添乗職員についても支援内容について周知できるよう事前打ち合わせの時間を確保していきます。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	15	6	パート職員に関しては、清掃や、預かり等があるため振り返りの時間が取りにくい。時間差勤務の為、話し合いが十分に出来ていない。	ミーティングノートを活用したり、隙間時間などを上手く活用しながら支援の振り返りや、支援目標など話し合う時間を作っていきます。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	22	0		
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	21	1	年度当初の引継ぎや、年3回のケース会議などで多職種が連携しながら判断している。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	22	0		
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	20	1	虐待や家庭のリスクが高い家庭に関しては連携を取るよう努めている。	
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	22	0		
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	22	0	必要に応じて電話や文書で連絡を取り合うようにしている。担任や相談員が医師等と連絡会議を実施している。	
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	22	0		
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	22	1	学校によるが引継ぎ連絡会議や担当者会議、就学、就園後フォローなどで連携をとっている。	
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	21	0	自立支援協議会、通所分科会に参加。発達障害者支援センターにコンサルテーションを依頼している。	
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	11	10	コロナ禍ということもあり機会は減っている。就園予定児に関しては交流に参加。	感染症の状況を見極めながら機会の確保に努めていきたい。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	21	9	児童発達支援管理責任者や相談担当が参加している。	協議会などに参加しているが職員への情報共有にも努めたい。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	22	0	クラス懇談会や、保護者交流会、親子活動、面談、家庭訪問の中で意見を伺ったり相談に随時応じるようにしている。	
31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	21	1	親子活動を通じて対応についての助言をしたり、保護者研修を年数回実施している。	コロナ禍で、実施回数が減ったり、人数制限を設けたりしていたが以前の研修頻度に戻し開催できるよう年間計画を立ててお知らせできるよう企画していきたい。	
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	22	0	利用契約時に説明を行っている。	
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	21	0	面談時に全員に個別支援計画の支援内容や支援目的、評価、見直し等の説明を行い、同意を得ている。	
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	22	0	必要に応じて随時面談や家庭訪問、電話での対応などを行っている。	
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	22	0		
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	22	0		
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	22	0	ほのぼの通信(園だより)やクラスだよりを月1回、わんぱく通信(センター広報誌)を年1回を定期的に発行している。	
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	23	0		
	39 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	22	0	子ども達とは視覚支援でのコミュニケーションも取り入れている。また、保護者とは面談や連絡帳でやりとりを心がけている。	
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	19	3	運動会などの行事に招待している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	22	2	安全計画を策定中。避難訓練等は定期的を実施している。周知徹底はされていない。	令和6年度に向けて安全計画【緊急時対応マニュアル(食事、プールあそび、園外活動、不審者)、通園バス送迎安全管理マニュアル、BCP事業持続計画、感染症対応マニュアル、保育環境、遊具安全管理チェックシート】を作成中、研修などで周知徹底を行い、同時に訓練なども実施していきます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	25	0		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	24	0		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	25	0		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	23	1		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	26	0	施設長が中心となって研修など実施。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	23	0		

27名中27名回答 (無回答、どちらかわからない含む)